

輸出事業計画 ※申請者名：いわきブランド輸出拡大協議会

品目：米加工品(米粉の麺、米粉のカレー等)、
かまぼこ等、菓子(ヴィーガン・グルテンフリー)

1. 輸出における現状と課題

【現状】

福島県いわき市は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、米や果物、野菜、魚介類など多彩な農水産物が生産されている地域である。しかし、日本国内の人口減少に伴う消費低迷が進む中、海外市場への輸出拡大が重要な課題となっている。これまで、輸出の専門家や商社からの情報収集を通じて、輸出の可能性と課題を把握してきた。実績としては、米国やフランス、オーストラリアへの輸出経験があり、特に福島フェアへの出品を通じてヴィーガン・グルテンフリー米粉菓子や米粉加工品、かまぼこなどが一定の評価を得ている。しかし、定期的な輸出販路の確保が一部で課題となっており、今後はこれらの課題を解決し、持続的な輸出拡大を目指す必要がある。

【課題】

【生産・製造】（各国共通）

- ・**原材料の高騰と調達難**：原材料価格の上昇と安定した調達が難しく、リスク分散と供給体制の強化が必要である。
- ・**人手不足**：生産効率の低下が懸念され、従業員の多能工化などの対応が求められている。
- ・**食品安全・衛生管理**：HACCPに基づく管理体制の強化や、米国食品安全強化法（FSMA）および台湾の食品安全衛生管理法への対応が必要である。
- ・**エネルギーコストの上昇**：設備の省エネ化や再生可能エネルギーの活用が急務である。
- ・**市場変化への対応**：消費者ニーズの多様化に迅速に対応できる市場調査や製品開発が求められている。

【加工】

- ・**米国**：米国食品安全強化法（FSMA）やFDAの査察対応のため、食品安全計画の作成やラインの見直しが求められる。
- ・**フランス**：EUの輸入規制（混合食品規制、ビスフェノールA、添加物規制、有機食品表示ルール等）に対応する必要がある。
- ・**台湾**：食品安全衛生管理法に基づき、食品添加物、残留農薬、重金属の厳格な基準を満たす必要がある。加えて、放射性物質検査報告書や産地証明書の添付も求められる。

【物流】（各国共通）

物流コストが商品価格に影響を与えるため、現地での競争力強化には物流の効率化が必要である。

【販売】（各国共通）

販路開拓には営業費用がかかり、売上利益からの捻出には限界がある。

2. 輸出事業計画の取組内容

【生産・製造】（各国共通）

原材料の高騰と調達難への対応：主原料である米の自社栽培面積を拡大し、安定供給を図るを目指す。また、複数の仕入先を確保し、調達リスクの分散を進める。

人手不足への対応：ジョブローテーションを導入し、従業員の多能工化を図ることで生産効率の向上を目指す。

食品安全・衛生管理の強化：HACCPに基づく管理体制の強化や定期的な衛生教育を実施を検討する。また、米国食品安全強化法（FSMA）や台湾の食品安全衛生管理法への対応については、必要に応じて専門家のアドバイスを受けながら、製造ラインの見直しを進めることを検討する。

エネルギーコストの削減・上昇対策：省エネ施策（LED導入等）を推進し、エネルギー使用量を削減する。再生可能エネルギーの活用も検討する。

市場の変化と消費者ニーズの多様化への対応：ターゲット市場での定期的な市場調査を実施し、現地の消費者トレンドや競合動向を分析。その分析結果に対応して、商品開発及び、レシピ提供や調理方法の動画配信などの情報発信を強化し、商品の利用促進を図る。

【加工】

・**米国**：専門家のアドバイスを受けながら、FSMA対応のためのライン見直しや新規加工製造機器の導入を検討する。

・**フランス**：EU規制（混合食品規制、添加物規制等）への対応として、製品成分の見直しや衛生証明書の取得を進める。

・**台湾**：食品安全衛生管理法に準拠し、食品添加物の規制を遵守する。ラベル表示の整備を行い、放射性物質検査証明書の取得体制を強化する。

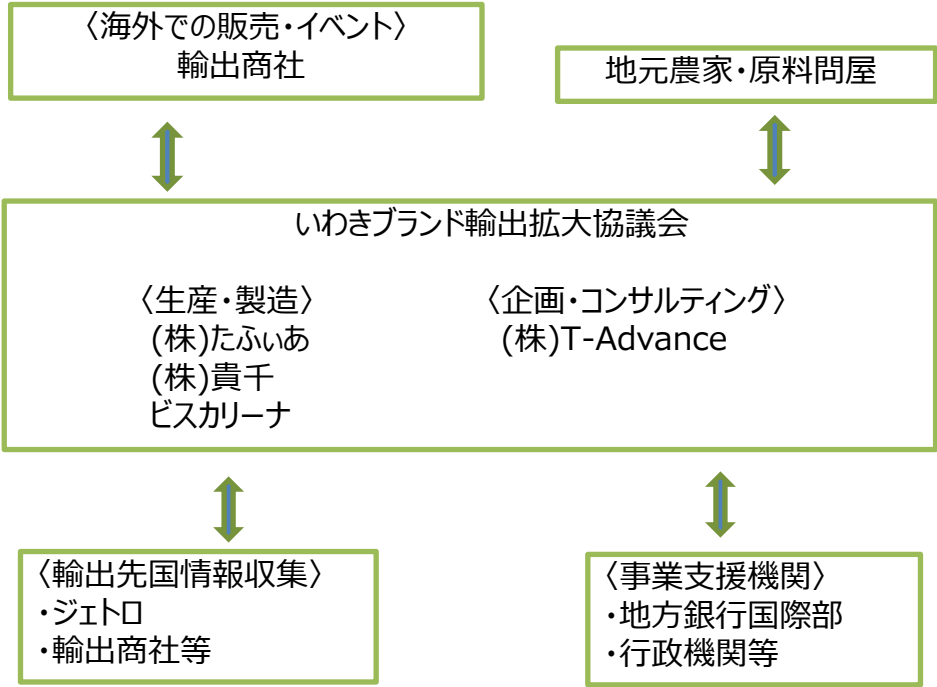
【物流】（各国共通）

輸出商社や物流関連企業と連携し、最適な物流ルートの選定や配送スケジュールの調整を行い、物流の効率化とコスト削減を図る。

【販売】（各国共通）

費用を抑えてチャレンジできる公的機関の事業（県で開催されるフェアへの参加やJETROブース等への出展）を活用する。補助金の活用も検討し、販路開拓を積極的に進める。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



いわきブランド輸出拡大協議会の事業全体では、いわき市産の農産物や加工食品の輸出拡大を目指し、商品企画や生産、販売に至るまでの各プロセスで、仕入先の農家や原料仕入れ先、支援機関、参加企業、連携する商社と協力しながらPDCAサイクルを回している。協議会が中心となり、商社のネットワークや専門知識を活用し、支援機関のアドバイスと組み合わせることで、継続的な改善と市場開拓を進め、持続可能な輸出体制の構築に取り組んでいる。

4. 輸出目標額

		現状 (令和5年度)	目標年 (令和9年度)
米加工品(米粉の 麺、米粉のカレー ルー等)	輸出額(千円)	1,167	5,840
	輸出量(kg)	634	3,170
	輸出先国	米国 フランス オーストラリア	米国 フランス
かまぼこ等	輸出額(千円)	877	1,607
	輸出量(kg)	258	510
	輸出先国	米国 オーストラリア	米国 台湾
菓子(ヴィーガン・ グルテンフリー)	輸出額(千円)	878	1,200
	輸出量(kg)	176	240
	輸出先国	米国	米国 フランス